

第7回 日本クラブユース女子サッカー大会 U-18 (1・2回戦)

参加報告書

報告者：島根県2級審判員 伊藤華蓮

○研修日程

2025年7月27日～7月30日

事前研修 (zoom) 2025年7月15日

○大会概要

大会名：第7回 日本クラブユース女子サッカー大会 (U-18)

会場：1日目 SUNAGA サッカースタジアムあずま (群馬県伊勢崎市)

2日目 大野工業大胡総合運動公園陸上競技場・サッカー場 (群馬県前橋市)

日程：2025年7月28日 1回戦 7月29日 準々決勝

○事前研修 7月15日

競技規則改正についての事前研修を行いました。今大会は、キーパーの8秒ルールと、ドロップボールをするチームについて主に導入された大会でした。8秒ルールでは、なぜこのルールを取り入れたのか、現在のキーパーは何秒手でコントロールしているのかなど競技規則改正の理由についてなどについて学びました。実際にレフリーとしてどのような方法でカウントダウンするのか、競技者やスタッフ、観客にわかりやすく示すにはどのような工夫が必要なのかについて話し合いを行いました。大会前にしっかりと確認を行うことが出来て、参考になりました。

また、どのような審判員に担当してほしいのか、自分がそのような審判員になるためにどのような努力をしているのか、日頃どのように実施していくのかについても話がありました。

○研修 7月27日

大会前日に集合し、研修を行いました。まずは大会要項について確認を行いました。その後、競技規則改正について再度確認を行いました。また、試合の映像を見てどのように対応すべきか、選手に対してのコミュニケーションをどのようにすればいいのかなどについて学びました。選手がどのようなプレーを選択しているのか、試合の時間帯はどうかなど、状況に合わせて判断、対応していくことが大切であると分かった。

群馬県は急な雷雨が多い地方であるため、雷が鳴った際の注意事項、試合の成立などについてもお話がありました。今大会はナイターゲームであり、21時までしか会場が取れていなかったため、試合を最後までやるには何時までにキックオフしなければならないの

か、大会運営側との情報共有はどのようにすれば良いのかについての内容でした。実際に試合で適応はなかったですが、グラウンド上にいる選手の安全を第一に考えることの大切さが学びました。

○研修 7月28日

試合前の研修会として、遅延行為に関するお話がありました。実際に試合の映像を見て、フリーキック再開時の守備側競技者の遅延に該当するプレーの分析を行いました。攻撃側競技者がどのようなプレーをしようとしているのか、それに対して守備側競技者の立ち位置はどこなのかなど様々な視点からプレーを見ることが大切であると分かりました。遅延行為が起こらないように主審としてどのようにマネジメントすれば良いのか話し合いを行いました。競技者全体に分かるようにするには笛を使って伝える、該当競技者を呼んで伝えるなど工夫が必要なのことが分かりました。ペナルティーエリア付近でのファウルはすぐに介入を行い、ハンドを予防する声かけ、再開位置、壁の距離など調節していくことが大切であると思いました。

また、タイムマネジメントについての講義もありました。今大会はライブ配信もあったことから、キックオフ時間に遅れないようにどのようにコントロールするのかを学びました。普段他の審判員や現役時代にどのような工夫をされているのか話を聞くことが出来ました。私は試合でキックオフ時間が遅れてしまうことがあるため、今後の参考になる講義でした。

○7月28日 1回戦：主審

JFA アカデミー福島 vs 愛媛 FC レディース MIKAN

～振り返り～

試合を通して出来たことは、一貫してプレーの判断をすることが出来たことです。前半から拮抗したゲームとなりました。ファウル数はあまり多くはなかったですが、ファウルだと判断したプレーは自信を持って笛を吹くことが出来ました。また、今までの課題であったクロスがあげられる際にペナルティーエリア内が見えていないことが多かったですが、今回は意識して見る事が出来ました。

今後の課題として、スピード感のあるプレーについて行けるようになると見栄えがもっと良くなると指導していただきました。前線の選手にロングボールが入った際において行かれてしまうことが多かったです。予測をして走り出せるように今後心がけていきたいです。また、センターアーク内で停滞して、プレーに巻き込まれてしまうことが多かったため、早めに抜け出してプレーを妨害しないように注意していきたいと思いました。

試合会場の照明が暗く、副審サイドからペナルティーエリア内が見えない状況であったため、主審としてピッチのどこであっても判断できる位置に動くことが大切になると学ぶことが出来ました。

初めてキーパーの8秒ルールが適応となり、マッチミーティングの際に両チームの監督から確認事項として質問がありました。いつからカウントスタートとなるのか、どのように示すのかを副審と一緒に、説明を行うことが出来ました。実際にやってみると立ち位置が難しいと感じました。

○研修 7月29日

まず、前日の試合の振り返りを行いました。チャレンジしたこと、実際どうだったのか、会場はどのような環境だったのかなどについて話し合いました。会場によって設備が異なったため次の会場がどのようなところなのか情報共有が大切でした。

振り返りの内容として、タイムマネジメント、8秒ルール、ファウル判定について主に行いました。タイムマネジメントでは、キックオフ時間についてでした。キックオフ時間が遅れないように、ピッチ上の用具のチェックをUP終了後に再度確認する、あと何分でキックオフするのかをキャプテンに伝える、笛で伝えるなどすると良いという話がありました。私の試合でキックオフが遅れてしまったため、今後注意していきたいと思いました。8秒ルールでは、実際にやってみてどうだったのかという話し合いをしました。立ち位置が難しい、カウントしていないはじめの3秒でポジションを取るのが難しいという話が出ました。どのタイミングで動き出せばいいのか、どこのポジションだと見やすいのかを教えていただき、次戦の参考になりました。ファウル判定では、試合の映像から、どのようなファウルなのか、次のプレーはどうなりそうなのかを考えて、警告の対象になるのかどうかを考えていくと良いという話がありました。

○7月29日 準々決勝：主審

サンフレッチェ広島レジーナユース VS ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ

～振り返り～

上位リーグを担当させてもらい、PK戦まで行く試合となりました。

前日の振り返りを踏まえて、タイムマネジメントをしっかり行うことが出来ました。マッチミーティングの際に両チームに時間厳守でお願いすることを伝え、整列コール前にチェックを終了することが出来、余裕を持ってキックオフをすることが出来ました。

課題として、ファウル判定が近くで出来るポジションでプレーを見ることでもっと根拠思っで判断できると指導をいただきました。アフターを見逃してしまう場面も多かったため、ボールだけでなく蹴られた後のプレーにも目を残すように心がけていきたいと思いました。また、前半の飲水時に負傷者が出て、そのタイミングで飲水を取りました。負傷者側のチームにうまく飲水が伝わっていませんでした。笛を使って全体に伝えたが伝わってなかったため、ベンチにしっかりと伝えるべきであったと思いました。また、ディフェンスラインでパスが回っているときに低い位置で停滞してしまうため、プレー状況を判断して、前線にいつ走り出せばいいのかを考えて動けるようにしていきたいと思いました。

○研修 7月30日

前日の試合の振り返りと、大会全体の振り返りを行いました。チャレンジしたこと、出来たこと、出来なかったことについて発表を行いました。出来なかったことについて全体で話し合いを行いました。アディショナルタイムの終了間際にコーナーキックがあった場合、「ラスト1プレー」であることを伝え、ボールをクリアした時点で終了するべきであるという話がありました。コーナーの前に競技者に対して、ラストであることを伝えておくことで、時間の厳守になると分かりました。

大会全体の振り返りとして、プレーの予測や見通しを立てる、選手とのコミュニケーションを取る、戦略を理解することなどが大切であるとお話がありました。試合を通して、もっとプレーの予測をする、戦術を理解してポジショニングを取るなどが大切であると感じたため、今後の活動に生かしていきたいと思います。

○大会全体を通して

今回、2回目の全国大会に参加させていただきました。前大会よりも、レベルが高く、実力不足を痛感しました。中国地域や島根県では体感できない女子サッカーのレベルを経験することが出来、貴重な経験となりました。審判員やインストラクターの方と、楽しくコミュニケーションをとり、充実した3日間となりました。

最後となりましたが、今大会に推薦していただきありがとうございました。多くの学びや気づきがありました。今回得た学びを今後の審判活動に生かして、地域での活動を頑張っていきます。

ありがとうございました。

